

熊本大学広報誌

熊大通信

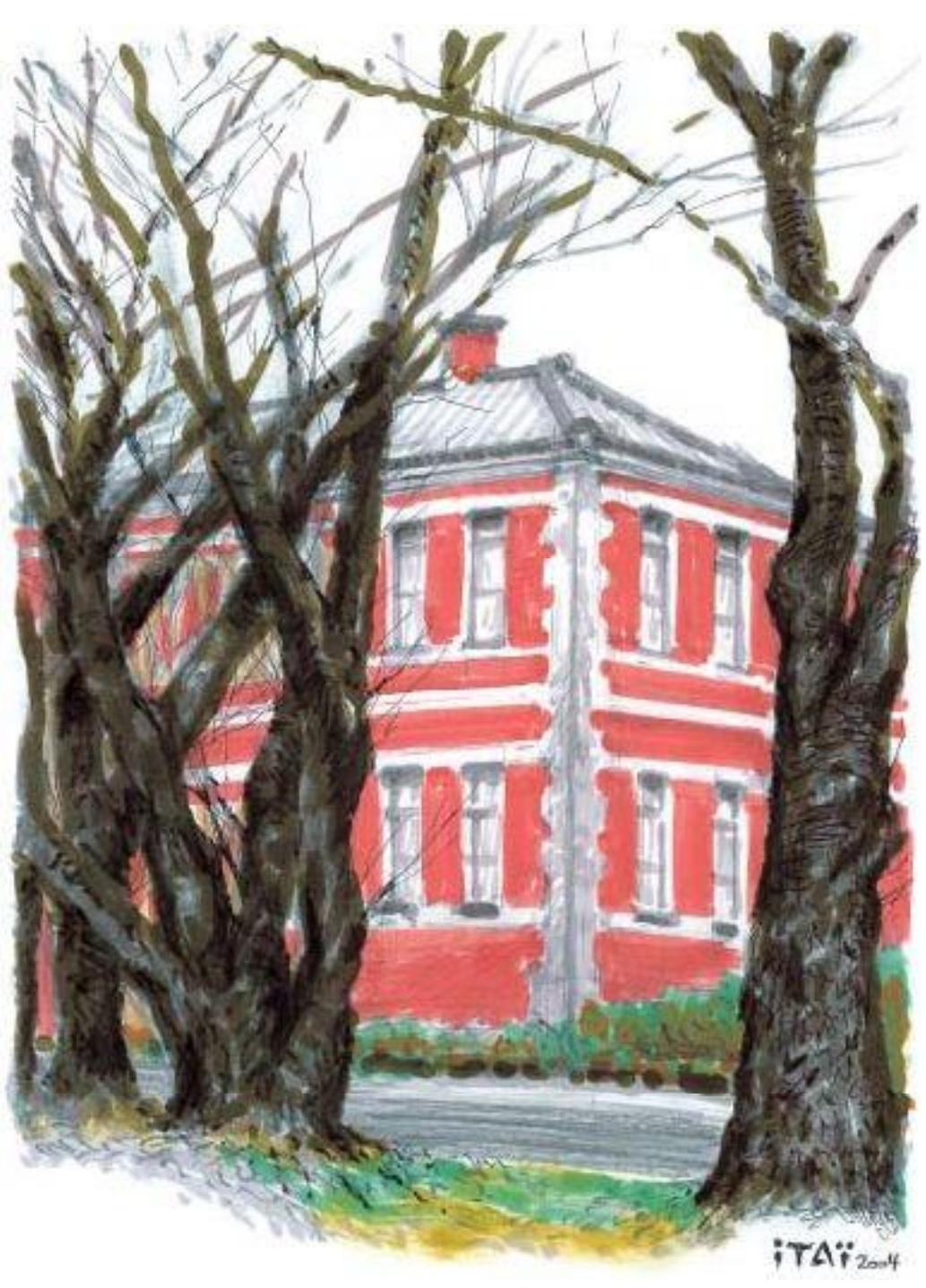
KOMATSUIN
Jan2005

Vd.15

特集

ラフカディオ・ハーン、現代へのメッセージ

{100年のときを超えて}





~あなたのための熊本大学~

熊本大学は、4つのこと力を投注します！

- Upgrade 未来を生き抜く人材の養成
- Unique 新たな知的価値の創造
- Union 地域連携と地域貢献
- Universal 留学生教育と国際貢献



新年あけましておめでとうございます 熊本大学長 崎元達郎

新年あけましておめでとうございます。

未だに明るさの見えない経済

状況、行財政の構造改革の厳しさ、

困難さは昨年4月スタートした國

立大学法人熊本大学にも課された続

けます。本年の4月からは、法人化

2年目になりますが、大学予算が

療を実施しており、地域に根ざして世界に発信する大学を創るべく全構成員が一致協力して努力しております。

その成果を報告しますと、「特色(GP)」に「学習と社会に扉を開く全学共通情報基礎教育」が採択されました。全国に少ない2年連続のGP採択により、情報

(SOSSEKI)を用いた学習支援と情報倫理を含めた情報リテラ

シー教育が益々充実します。
また、「専門職大学院形成支援プログラム」には本学法科大学院が申請した3件(11大学連携、3大

学連携、単独)がすべて採択され

るという快挙も成し遂げました。これを機に電子収録設備を備えた模擬法廷の整備やサイバーリニックスシステムの構築が進められます。また、三洋電機(株)との包括的連携の調印、東京リエゾンオフィスの開設と「参与」制度

のスタート、「地域結集型研究推進事業」の文部科学大臣賞の受賞、ハーン没後百周年祭とレリーフの建立、熊本大学同窓会連合会の設

立、薬学部宮本記念館の竣工等、多くの良いニュースや事業が進みました。

本年は附属病院中央診療棟が建ち上がりますし、発生医学研究センターニーの新棟の完成、黒髪南地区(理学部工学部)の校舎の改修のスタート、情報ネットワーク

学習センターの合築など、施設整備が飛躍的に進む予定です。

事業では、今までの諸事業に加えて、ものづくり創造融合工学教育事業、ナノスペース電気化学研究会創出事業、熊本大学LINK構想を活用した地域再生推進事業(シ

業等を推進する予定です。私たちもは変動の中にこそチャンス有りと考えて一人ひとりの意識の改変による大学改革の推進と競争的環境のなかでの国立大学法人熊本大学の更なる発展に努力する所存です。

年頭にあたり、2004年の輝かしい成果を踏まえて2005年が更なる発展の年となるよう学内外の関係各位のご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

CONTENTS

〈目次〉

知と社会

Vol.15

ラフカディオ・ハーン 現代へのメッセージ

～100年のときを超えて～

P.1

夢の実現

「ハエが教える体内時計と睡眠のしくみ」

熊本大学 発生医学研究センター 助教授 糸和彦 P.6

熊大群像

「和気あいあいとアートで交流」

熊大教員美術展

P.8

卒業生を訪ねて

「バイオニア精神と夢を持ってソフトウェア開発に挑戦」
(株)RKKコンピューターサービス 代表取締役社長 野田照幸氏 P.10

国際交流 ~国際総合大学としての熊本大学~

～海外で新たな自分を見出し～

教育学部4年・足立知恵さん、法学部4年・平江香南子さん
文学研究科2年・佐野和隆さん

P.12

特色GPに熊本大学が2年連続で選ばれました

学習と社会に扉を開く
全学共通情報基礎教育

P.14

学生レポート

いのちのフォーラム

P.16

熊大INFORMATION

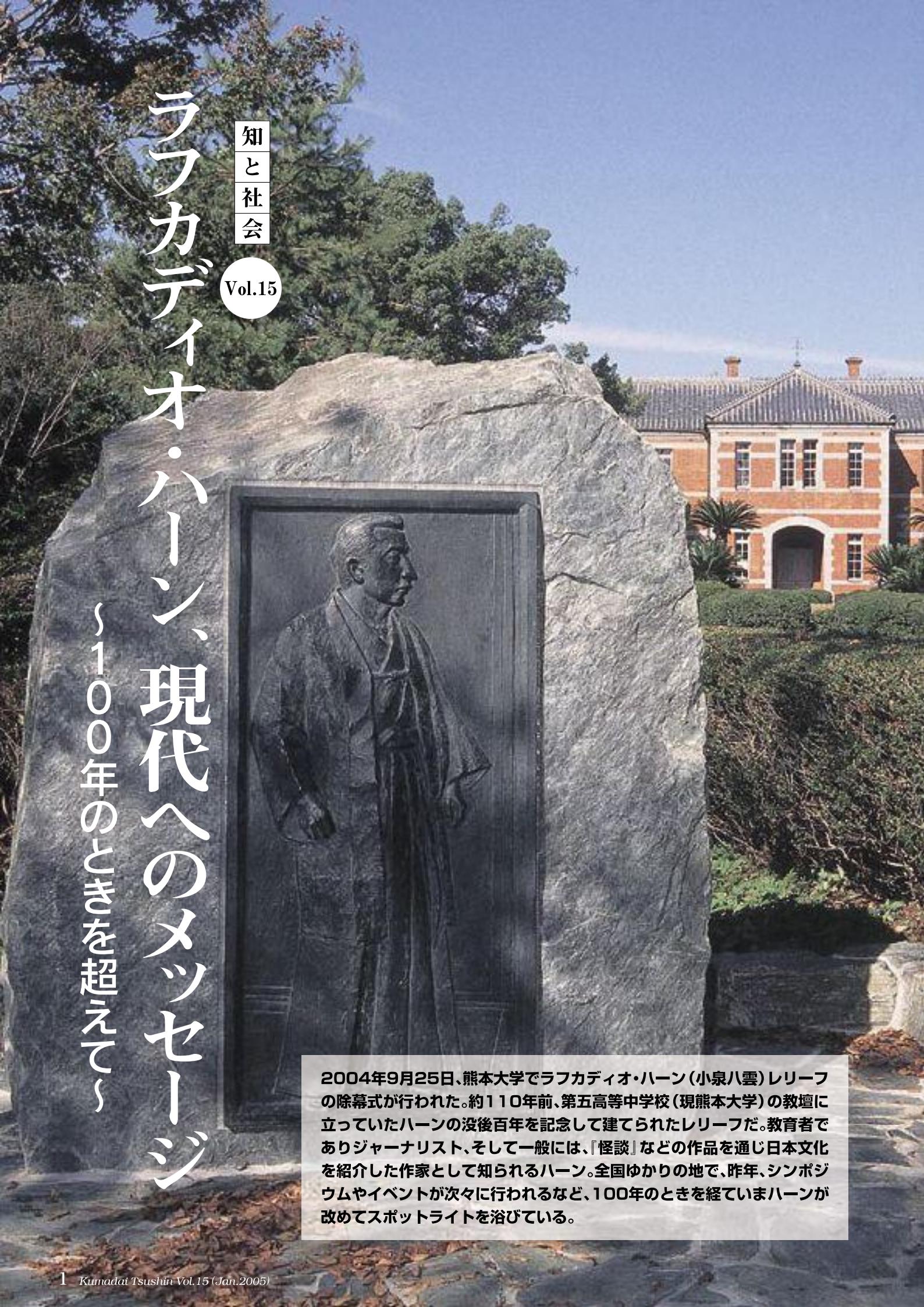
P.18

ラフカディオ・ハーン、現代へのメッセージ ~100年のときを超えて~

知
と
社
会

Vol.15

2004年9月25日、熊本大学でラフカディオ・ハーン（小泉八雲）レリーフの除幕式が行われた。約110年前、第五高等中学校（現熊本大学）の教壇に立っていたハーンの没後百年を記念して建てられたレリーフだ。教育者でありジャーナリスト、そして一般には、「怪談」などの作品を通じ日本文化を紹介した作家として知られるハーン。全国ゆかりの地で、昨年、シンポジウムやイベントが次々に行われるなど、100年のときを経ていまハーンが改めてスポットライトを浴びている。



ハーンの視点には、現代人の共感を呼ぶ、あるいは示唆を与えるものが多いと言われる。ハーンが現代の私たちに残したメッセージとは？ 熊本大学が精力的に取り組んでいるハーン研究から、その実像に迫つてみよう。



Morio Nishikawa

教育学部教授
西川盛雄

アメリカで歩き出した ジャーナリストとしての道

没後一世紀も経つてなお関心が深まるハーンとはどういう人物だったのだろう。「ハーンの持つ独特の視点を語るとき、彼の過酷な生い立ちがその根底にある」と、『熊本大学小泉八雲研究会』のまとめ役、西川盛雄教授は指摘する。

1850年、ハーンはギリシャのイオニア諸島のひとつレフカダ島で生まれる。ギリシャ人の母と共にアイルランド系イギリス人の父の実家のあるダブリンへと向かうが、両親はハーンが幼い頃に離婚。母とは4歳で生き別れ、父も早くに他界する。大伯母に育てられイングランド、ダーラム郊外のカトリック系の神学校へ進学するが、そこで遊戯中に左目を失明。その後、大伯母の破産により仕

送りも途絶え17歳で学校を中退する。まさにどん底にあつたハーンは、19歳の時移民船でアメリカへ渡つた。

「ギリシャとケルトというヨーロッパでは弱い立場の血を受け継ぎ、自らも家庭崩壊の憂き目を味わつたことが、ハーンの価値観の大きな背景となつてゐる」と西川教授は語る。

27歳でニューオーリンズへ移ったハーンは、小説も2つ書くなど、新聞記者としての名声を更に高める。西インド諸島のマルティニク島滞在を綴った紀行文の執筆がきっかけとなり、39歳のときにはラベルライターとして日本を訪れる。既に『万国産業綿花博覧会』の取材などを通じて日本



Shigemi Satomi

文学部助教授
里見繁美

文化に興味を抱いていたハーンは、当初の契約を破棄して日本に残り、その後は日本に関する記事や作品をアメリカへと送り続けることになる。

「当時、日本で執筆し西洋へ送られた記事はまだ珍しく、興味を持つて読まれていたようです。例えば、AINシュタインはハーンの記事を読んで日本に興味を持ったと言っています。ハーンが書こうとしたのは、庶民の暮らしの中にある日本人が持つ美しさや優しさ。彼が十代までを過ごしたヨーロッパは、産業革命のありで人間性が押しつぶされ、合理主義から人の温かみが失われ殺伐としていた時代。それに加え自らの過酷な体験が根底にあつたからこそ、日本のよき側面に接してこれを書きたいと思ったのではないでしようか」と里見教授は語る。

教育者としてのハーン

日本に残つたハーンが、生活のために就いたのが教職だった。当時東京帝国大学に勤務していたバジル・ホール・エンバレンらの尽力で松江の島根県尋常中学校に赴任。約1年後に第五高等中学



新聞記者だったハーンは、新聞にイラストを挿入することにより、紙面を視覚的に訴えるものへと変革した。
評判となつた「シンシナティ・エンクワイアラー」紙の紙面。



昨年6月に熊本で発見されたハーンの英作文添削のガラス乾板写真を伝える記事。解説した熊本大学の西川教授は「生徒を励ます温かい添削」。コメントの内容は文明論、宗教論などかなり高度」と語る。(熊本日日新聞)

校（現熊本大学）へとやつて来る。「教職の訓練など受けたことがないのに、ハーンは最初から教えるのが上手く、とても評判のいい先生でした。教え方は懇切ていねい。自ら絵を描いたりして分かりやすい授業をしました。『英語教師の日記から』や『九州の学生たちとともに』などを読むと、うるわしい師弟関係が見えてきます。決して権威的でなく、リラックスできる雰囲気で、しかも中身はとても濃い授業。もし同じ時代に生きていたら、私もハーンの授業を受けたかつたですね」と、教育者としてのハーンを語るのは福澤清教授。

ハーンは生徒に英作文を書かせるとき、そのテーマに日本的なものを選ぶことが多かったという。子どもたちが書きやすく、また、ハーン自身が日本文化を生徒の目を通して知ろうとしたからだと言われる。西欧について、日本についての自分の

知識や考え方を伝えると同時に、生徒たちからも学んだハーン。そこには、生徒と同じ目線で対峙する教師像があると研究者たちは指摘する。

後に帝国大学の教壇に立つたときも、本やノートは使わずメモ紙のようなものを見ながら、どうとこうと講義をしたというハーン。「ハーンは、理路整然と理詰めで教えるのではなく、感情を込め心に訴えかけるような授業を心掛けたようです。お



Kiyoshi Fukuzawa

文学部教授
福澤 清

「熊本大学におけるハーン研究」

熊本大学では『小泉八雲研究会』が活躍しており、昨年は各地におけるイベントへの協力に加え、独自のシンポジウムを開催してハーン研究を深めた。この研究会を中心とした普及活動としては、ラジオの公開講座や一般向けの公開講座、地元アイルランド協会と連携したハーン旧居での市民講座などがあった。また、学内の附属図書館でもハーンを研究テーマの一つとし、関係資料の一般公開や講演会などを開催。さらに、これらの研究成果をまとめた学術書を、平成元年と11年に出版している。熊本大学ではこれからも、ハーン研究拠点のひとつとして、このキャンパスからハーンの精神を伝えていきたいと考えている。

そらく天職と言つていい
ほど教職に向いていたの
ではないでしょうか」と
福澤教授は語る。

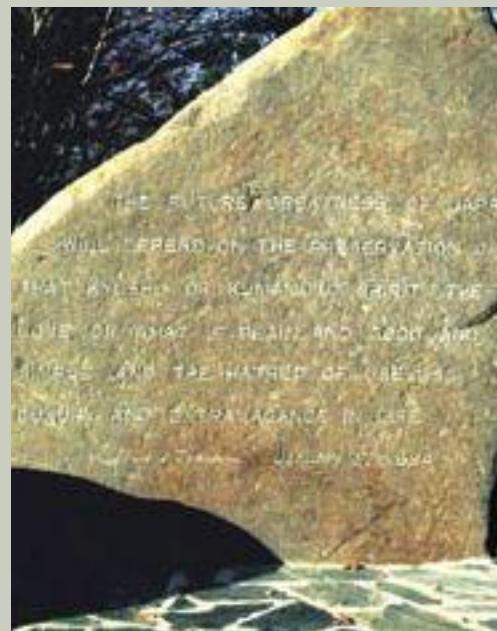
日本人になろうとした ハーン

では、ハーンは日本でどんな生活をしていたのだろ。ハーンと同じくアメリカからやって来た外国人教師アラン・ローゼン氏はこう語る。「ハーンは、日本人と同じ暮らしをし、日本人の心に入り、日本人の目を通してこの国を書こうとしました。当時、歐米には既に日本を紹介する本や記事がたくさんありました。しかし、彼は、より深く日本を知ることで欧米の知らない日本を書こうと思つたんですね」。

松江で妻セツと出会い、衣食住すべてにわたつて、基本的には日本式の暮らしをしたハーン。しかし、食生活だけは思うようにいかなかつたよう

だ。「松江では、日本に押し寄せて西洋文化と胃袋で鬪いました。口にするのは日本食だけ。でも、8ヶ月でカラダがおかしくなつて入院しました」。熊本へ来てからは考えを180度変え、洋に戻したハーン。作品を書くパワーが出なかつたからだという。日本の道徳感や精神文化、美意識に魅せられたというハーンの、ちょっとユーモラスなほどのこだわりぶりが伺える。

「ハーンはどこへ行つても偏見と鬭つた人。たとえば、アメリカでも黒人たちの音楽や褐色の肌の美しさ、ユダヤ人の屠殺の仕方がいかに慈悲深いかといった記事も書いています。日本でも同じ。宣教師が説くキリスト教より、田舎の人々の正直で純粹な協調性のある生き方の方がよほど立派だといったことを書いています。トラベルライターとして、その土地の暮らしの中から素晴らしい



Alan Rosen

教育学部外国人教師

アラン・ローゼン

明治27年1月27日、第五高等学校にて職員と生徒を前に「極東の将来」と題して講演を行い、深い感銘を与えた。このときの結びの言葉が英文碑に刻まれている。

「日本の将来は無益な贅沢、華美を捨て、質実、簡素、善良を愛する九州魂、熊本魂の維持如何にかかっている。」

ラフカディオ・ハーンの足跡 (1850~1904)



いものを見つけ出し、自分たちの価値観が一番だと思つてゐる白人や欧米人にホント?という疑問符を送つた人ではないかと思います」と、ローゼン氏はハーンを分析する。

相対的視点を持つ感情と五感の人

熊大でのシンポジウムのため来熊したハーンの直系のひ孫で民俗学者の小泉凡助教授(島根女子短期大学)は、熊本時代のハーンについてこう

語つてくれた。「松江の気候や人の気質が氣に入つたハーンは、初め全く違う熊本の雰囲気に違和感を覚えたようです。しかし、住むうちに剛毅、朴訥で、倫理の精神を持つ人々の良さが次第に分かつてきました。1894年、五高で『極東の将来』という講演をしていますが、その中では、熊本人のような九州スピリッツを日本人が持ち続けられるかどうかに日本の将来がかかっていると言つています。日本人が舶來を覚え贅沢になることを憂慮し、コストが高くつく民族は滅びるとも言つています。熊本時代というのは日本に来て3年くらい。日本のことが客観的に見えるようになり将来が心配になつたのでしょう。八雲は常に、相対的、客観的に物事を見る人でした。それは、ジャーナリストとしてさまざまな土地で異文化や異なる思想、情報にふれていたこと、また、当時は世界の常識だった西洋中心主義に陥らなかつたことが大きかったです」と思います。

しかしその一方で、何ごとも理性だけでは判断せず、感情を重視し、感覚を開いてものを見る人で

もあつたという。「左目は失明、右も視力が弱かつたので、その分、聴覚や嗅覚など他の感覚をフルに使って観察していたようです。私たちはいま、あまりに感覚を閉じている気がします。人を殺しても簡単に再生してしまうゲームでは五感は使いません。今の子どもたちにこそ、ハーンのようなものの見方を持つて欲しいと思います」と小泉氏は語る。

ハーンから現代人へのメッセージ

「ハーンには、4つの側面がある」と、西川教授は語る。第一に民話や説話を題材とした再話文学作家としてのハーン。第二にその背景ともなるジャーナリストとしてのハーン。第三に民俗学者としてのハーン。そして、第四に教育者としてのハーン。

「ハーンは、カラダは西から東へ、メンタリティは活字を通して東から西へと向かうことで、西欧と東洋の橋渡しをした人物です。今日でこそオリエンタリズムという言葉がありますが、まだ西洋の優位性を誰もが信じていた百年以上も前、文明の持つ平等性やユニタリズムを説き、互いの違いを尊重することで共存、共生することが大事だと考

えた人物。また、自分の生い立ちから学んだ家族の大切さ、人と人との絆、そして人としてのモラルの重要性を説き続けた人物。そう考えると、ハーンは、今日の私たちに大きな示唆をしてくれる、忘れてはならない存在だと思います」。

ハーン研究拠点のひとつ熊本大学、そのキャン

パスに没後百年を記念して建てられたハーン・レ

リーフ。その姿からは「人と人、民族と民族、国と国、もつと仲良くやろうよ」というメッセージがいまも聞こえてくるようだと語る西川教授。時代を見つめ続けるハーン像は、これからも学生と教師たちを温かく導いてくれることだろう。



Bon Koizumi

島根女子短期大学助教授

小泉 凡



平成16年9月25日、ギリシャ大使、アイルランド大使、熊本県知事、熊本市長などを招き、ハーン・リーフの除幕式が行われた。リーフの制作者は、教育学部長である石原昌一教授。

※再話文学…昔から伝わる民話や説話を変容・再構成した文学

ハエが教える 体内時計と睡眠のしくみ

学問の喜びを発見し、夢を追い続ける研究者たちに話を聞くこのシリーズ。今回は、睡眠のメカニズムの研究で知られる発生医学研究センターの余和彦助教授を訪ねました。

遺伝子研究がしたくて、医学部に進学

「私が高校生の頃、世間では遺伝子操作などの話題がよくとりざたされていました。その影響で、遺伝子や人間の脳のしくみに興味を持つようになります。だから医者を目指してはいませんでした」。

余青年は医者ではなく、あくまで分子生物学の研究者を目指して東大医学部に進学。ところが当時、大学のゼミで地域医療に従事する増子忠通先生に出会い、考えが一変。「増子先生はまさに“赤ひげ”的なイメージ。下町の三層一間のお宅に気軽に往診に行くなど、患者さんと密接に関わっている」といいました。そんな人間味あふれる人柄と医療姿勢に惚れ、私も患者側に立った町医者のような存在でもありたいと思うようになりました。よく増子先生にくつづいて往診に行ったりしました。以来、分子生物学の研究とは別に、医者に

なるための勉学にも励み医師免許を取得。大学卒業後は、民間の救急病院で2年間、内科・小児科の研修医として働きました。「私の中では、医療を行う医者であることと、研究者であることは、医学というキーワードは一緒でも、まったく別のもの。だから、大学病院で研究をしながら患者を見るということはあえて避け、民間の病院を選んだのです」。そんな信念から、研修を終えた後は医療の現場を離れ、研究の道一筋に。

走り続けた10年目…

自分はいったい何を知りたいのだろ?!

民間病院で研修を修了した後の3年間、大阪大学医学院で分子遺伝学に取り組み博士号を取得。その後7年間は、東京大学医学部生化学会教室の助手を務め、生理活性脂質のメカニズムについて研究をしました。そうして研究生活10年目の節目に、



PROFILE

余 和彦(くめ・かずひこ)
1962年生まれ。名古屋市出身。熊大発生医学研究センター助教授。医学博士。東京大学医学部卒業。大阪大学医学院で博士課程修了後、東大医学部助手、ハーバード大学とタフツ大学の客員研究员を経て、2002年に熊本大学へ。専門は分子生物学。著書『時間の分子生物学』(講談社現代新書)は、講談社出版文化賞・科学出版賞受賞(2003年)。

培ってきたテクニックが有効に活かせると思いました」。そこで、留学をきっかけに研究テーマを「体内時計と睡眠」にシフトし、時間生物学分野のトップレベルであるボストンのハーバード大学に客員研

使った睡眠の研究に没頭することになります。

研究はワクワク・ドキドキの連続

「私にとって研究は、楽しくて仕方のないもの。試行錯誤の連続ですが、研究者はまだ世界中で誰も知らないことを追求し、解明していくのですから、ワクワク・ドキドキできる職業なんです。テレ

偶然から『眠らないハエ』を発見！



ショウジョウバエは、爪楊枝の先くらいいのかわいいハエで、果物を好むので、英語ではフルーツ・フライと呼ばれています。

ショウジョウバエの研究を始めると、ハエは昼行性で、日中活動に活動し、夜間はジッとしていることが分りました。そして確かに反応が鈍い睡眠状態が存在。さらにある偶然の出来事から研究は飛躍的に進むことになります。「ハエを観察していく、たまたま『眠らないハエ』を見つけたんです。このハエは極端な場合、3日間ずっと観察していく、5分以上動かないことが一度もありません。といふことは不眠症!」このハエを

調べれば、人間の睡眠の解明にもきっとつながるはずだと、それはもうワクワクしました!」平成14年に、発生学の研究者である妻の昭苑さんと共に熊本大学に助教授として赴任した後も、ショウジョウバエを使った体内時計と睡眠の仕組みの研究を継続しています。

また、研究とは別に、病院での診療も行い平成12年からホームページ「睡眠障害相談室」を立ち上げ、これまで1500件以上の相談を無償で受けています。「町医者の活動の一環です。あくまで研究とは別物だけれども『睡眠』という共通の力で結ばれていることは確かです。」

研究員として赴任します。ボストンは、ハーバード大学をはじめ、レベルの高い研究室がひしめきあい、日常的に最先端のデータが飛び交うアカデミックな町。そんな素晴らしい環境のおかげで、渡米1年目にして予想外の方向に研究が発展しました。「ある時、驚いたことにハエも眠るらしいという話を聞いたのがきっかけ。そこで、もしハエも眠るなら、その睡眠のメカニズムを研究すれば、ほ乳類を使うよりも解明が早く進むと考え、ショウジョウバエを使うことにしたんです」。そして、より研究に最適な同じボストンのタフツ大学に移り、ショウジョウバエを使つた睡眠の研究に没頭することになります。



「睡眠障害相談室」

睡眠に関する様々な相談を無償で受け付けています。
<http://homepage2.nifty.com/sleep/>

*ショウジョウバエという名前は、眼が赤くアルコールの匂いに集まる習性が、お酒が好きで目を真っ赤にして踊る猩々(ショウジョウ)という能のキャラクターに似ていることに由来している。

和気あいあいとアートで交流

34年前から毎年開催されている『熊大教員美術展』。この展覧会では、学長や副学長も含む熊本大学の教員やOBたちが、日頃趣味として創作した作品を持ち寄り一般公開しています。個性あふれる作品には、日頃の教育・研究活動の姿とは違った芸術を愛する教員たちのもうひとつの顔がのぞいています。



文学部 田口宏昭教授

展ですが、中にはプロ級の作品も多く、そのレベルはかなり高水準。毎年展覧会を楽しみに見に来られるファンの方もいるほどです。

歴史を遡ると、第1回は昭和46年。「ちょうど全国に大学紛争の嵐が吹き荒れていた時代です。熊本大学も例にもれず学内が殺伐としていたので、何か心潤すものをということで数名の先生が絵を持ち寄り始められたそうですね」と語るのは、昭和57年第12回から毎年出品を続けている文学部の田口宏昭教授。その後は、会員の十数人の規模になりました。

大学紛争を機にスタート

絵画を中心に陶芸、写真、木工など、多彩な作品が並ぶ『熊大教員美術展』。基本的には素人のグループ

個性あふれる作品群

この美術展のいちばん大きな特徴は、素材も作風もみんなバラバラ、強烈な個性を放つ作品がバラエティ豊かに並んでいること。「技術的な上手い下手と、いうよりも、一人ひとりの先生の顔が浮ぶような温かみのある作品ばかり。見に来てくれる人たちも、他の作品展とは全く違う面白さがあると言われますね」と、現在在世話人を務める文学部の大熊薰教授は語ります。

たとえば、橋の構造が専門の工芸部教授が描く橋の絵。ドイツ文学の



文学部 大熊 薫教授

教授が撮ったヨーロッパの写真。中には色を途中まで塗った独創的な作品も。「遠方で開催される学会にも、みんなスケッチブックやカメラ



昨年は9月21日から27日まで、「びぶれす熊日会館」6階ラウンジにある「熊本公徳会カルチャーセンター」で開催された。今年は8月下旬開催予定。

忙しいからこそ心のゆとりを

を持つて出かけているようです。私も30分、1時間の細切れの時間を使って描いています」と語るのは田口教授。実際に出品者は忙しい人ばかり。「だからこそ仕事だけしていい。心のバランスを取ることにはダメ。心のバランスを取ることが必要。私もそう言われて出品するようになりました」と、大熊教授も自らの参加動機を振り返ります。

最高の楽しみ

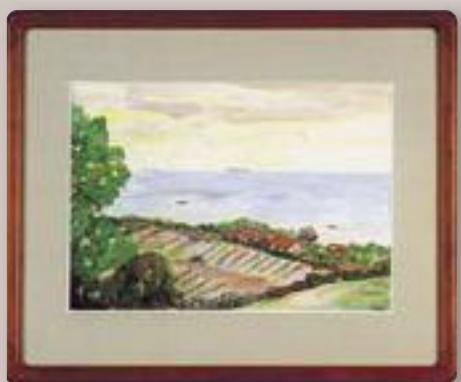
もうひとつ、この展覧会には参加者たちを引き付ける大きな魅力があります。それは、展覧会の後の懇親会。「1年に1度、年齢の違う仲間が集まる同窓会という感じですね」「この美術展には何も決まりがありません。会員規則もないし、絶対に



白いあじさい
崎元達郎学長



静
平山忠一副学長



畑と海のある風景
田口宏昭教授



桐漆塗ブレスレット
大熊 薫教授

出品しなければならないという縛りもない。でも、みんなが続いているのは、この懇親会が楽しいからかも知れません」と、会員たちは口を揃えます。「何の気兼ねもなく、互いの作品を評したり、いろんな情報交換ができるのが最高に楽しいし、心地いい」。34年間も続いてきた秘訣は、その辺にあります。

仲間同士の交流と展覧会を楽しんでくれる地域の人々とのふれあい。それが、この展覧会の魅力。心のゆとりとして続ける趣味を、みんなで楽しむ活動は、これからも参加者たちに大きなエネルギーを与えてくれることでしょう。

バイオニア精神と夢を持つて ソフトウェア開発に挑戦

熊本の情報産業のバイオニアであり、コンピュータソフトウェアの開発企業として今や全国に顧客を持つ(株)RKKコンピューターサービス。38年前その立ち上げから手掛け、現在社長を務める野田照幸氏は、社員一人ひとりの努力の成果こそが企業の発展を支えると語ります。

大学で学んだ統計学を活かし
テレビ業界から情報産業へ

—熊大理学部時代の思い出は？卒業後就職したRKK熊本放送ではどんなお仕事をされたのですか。

野田 大学時代から酒、タバコ、パ

チンコなどに熱中し、よく遊びましたね。専攻の統計学だけは一生懸命勉強して、それが就職に役立つました。ちょうど卒業の翌年昭和34年、熊本の民間放送としては初めてRKK-TVが開局し、マーケティング担当の人材を求めていたのです。私は、番組の視聴率やコマーシャ

ルの効果測定の仕事を担当しました。役員も社員もみんな初めての民放テレビ局ということで張り切っていましたね。

—現在の会社に移られたいきさつは？事業内容はどのようなものですか。

野田 RKKが地域の情報化に貢献

できる新しい事業を展開しようとしてコンピュータを使う時代が来るに方向転換を図りました。これは大きな決断でした。ソフトウェアの自社開発には初期投資も必要ですし、何よりもそれができる人材を育てる自信

精神と夢だけは忘れないようにみんなでがんばりました。現在は、自治体と金融機関向けの2つのマーケットに特化したソフト開発を行っています。東京、大阪、福岡等に営業所があり、お蔭様でお客様は全国にいらっしゃいます。

その後、いざれどこの企業でも自社でコンピュータを使う時代が来るに見越して、ソフトウェアの自社開発に方向転換を図りました。これは大きな理系の私なら適任だろうといふことです。理系の私なら適任だろうといふことで白羽の矢が立ったようです。創業当時は『熊本電子計算センター』という社名で、社員もわずか15名でした。しかし、世の中では、ま

好きな分野を決めて
チャレンジしよう！

—熊本を拠点に全国展開し、30年近く順調に業績を伸ばされていますが、その秘訣は？

野田 やはり人材ですね。企業は人



熊大理学部3年次の野田さん

世界は、特に社員一人ひとりの努力の成果がそのまま会社の発展につながります。ここ数年多くの企業が取り入れておられるようですが、我が社では30年前から成果主義を採っています。がんばった人はそれだけ報酬も多い。会社としても人材育成には力を入れています。技術力はもちろんですが、それだけではなく社会性を育むことも大切にしています。私自身、現場でソフト開発と営業の両方の仕事をやってきましたから、それが現在の

野田 これは社員にも言つてることですが、家庭円満を心掛けること。朝から口喧嘩でもして出てくると一日中調子が出ません。私は、社員の結婚記念日には各家庭へ花を届けるようになっています。奥さんからお礼のメールなどが届きますが、家庭が円満であつてこそ仕事に集中してもらえますからね。好きなものはお酒ですね。社員とも飲みながらざつくばらんに情報交換する場を設けています。そこで経営戦略のアイデアが出ます。

れません。『好きこそ物の上手なれ』という言葉もありますが、この分野に打ち込んでみよう、チャレンジし



PROFILE

野田照幸（のだ・てるゆき）
熊本県荒尾市出身。1958年熊本大学理学部卒業。翌59年にRKK熊本放送入社。1966年現在の「株RKKコンピューターサービス」（当時「熊本電子計算センター」から社名変更）へ、1995年から現職。

社員にも会社の姿勢や方針を分かってもらうことができるようです。

てみようというものを決め、それに向かって努力する熱意と目的意識が大切だと思います。人も企業も同じです。やっぱり、信念や理念を持つてがんばる人や企業が伸びるのではな
いでしょうか。



株式会社RKKコンピューターサービス

資本金：6,000万円
従業員数：403人（2004年1月現在）

従業員数：403人(2004年4月現在)
熊本出身社員数52人

事業内容：コンピュータのシステム設計

事業内容：コンピューターのシステム開発・販売

ソフトウェアの開発・販売
情報機器販賣 入力データ作成

情報機器販売、入力リード作成
ファシリティマネジメント&テ

フジツリナオマネシスト&
<http://www.fkkcs.co.jp>

<http://www.IKCS.co.jp>

教育学部4年・足立知恵さん／法学部4年・平江香南子さん／文学研究科2年・佐野和隆さん

海外で新たな自分を発見！

熊本大学では現在、世界18カ国、22大学と交流協定を結び、長年、学生の交換留学を行っています。今回、この交換留学制度を利用して、日本を飛び出し海外生活を経験した学生3人に、海外留学報告会の会場で留学を通して学んだことについて、お話をうかがいました。



足立知恵

留学先／イギリス・グラム大学
平成15年9月～平成16年7月まで留学



同じ寮で特に仲のよかった仲間と。

足立さんはイギリスのグラム大学、平江さんはアメリカのモンタナ大学、佐野さんはドイツのザールラント大学に、平成15年から16年にかけて留学しました。

足立さんは、交換留学制度があることも、熊大に進学した理由の一つでした。本場の英語が学びたかったんです。

平江 子どもの頃、家の近所の大学寮にアメリカ人の英語教師が住んでいて、たまに遊び感覚で英語を教えてくれていたんです。小さい頃から

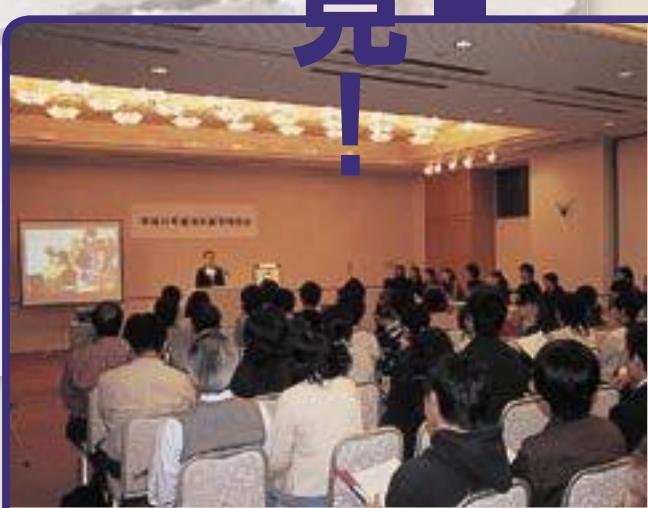
外国人と接する機会に恵まれ、自然と英語に興味を持つつていきました。また、海外に行き視野を広げることで、何かを得られたら…という思いもありました。実は、何になりたいのか自分でも分らなくて、就職のことでも悩んでいたんです。

佐野 学校では英語以外の勉強をしたことはありませんでした。ところが4年前、ドイツへ短期研修に行き、

一留学中は大変なこともあつたのにわかつたんです。研修以来、独学でドイツ語を勉強していたのですが、もつと上手く話せるようになりたいと考え、留学することにしました。それに、ドイツの生活を肌で感じてみたかったです。

足立 日常会話にはけつこう自信がありましたが、実は、何になりたいのか自分でも分らなくて、就職のことでも楽しく教えてくれたんです。その先生に出会つたことで、英語の教師を目指すようになり、大学も教育学

一留学のきっかけは、足立 中学時代の英語の先生が、テ



平江 ジャーナリズムの授業が大変でした。膨大な資料を読まなくてはいけなくて、毎週小テストもあったんです。もともと速読が苦手で時事に疎い私には、相当ハードな授業でした。

佐野 ザールラント大学の寮には、ドイツ人はもちろん、ヨーロッパやアフリカ、中東、アジアなど、世界各国からやってきた学生達が住んでいました。まさに人種のるっぽ。習慣や価値観もそれぞれ。例えば、中東の友達に「今度、遊びに行くよ」と言つたことがあつたのですが、そのまま一週間が過ぎた頃、「いつたいつ来るんだ！」と怒られました。彼らには、社交辞令という観念はなかつたんですね。いろんな国の人と接するうちに、「この地球にある価値観は一つではないんだ」と実感しました。



佐野和隆

留学先／ドイツ・ザールラント大学
平成15年3月～平成16年3月まで留学



トルコ人の友人と、その父親が経営するレストランの前で。

次の一步へ

ー留学中に得た収穫は？

平江 帰国後、アメリカ流ホスピタリティの精神に影響を受け、多くの人と触れ合う仕事に意を絞つて就職先を決めました。

足立 ダラム大学にはイギリスで3大学だけに残る、伝統的な寮制度があります。大学の敷地内に14の寮が建ち、その一つでは“ハリー・

ポッター”の撮影が行われたんですね。実際の寮生活も、ハリー・ポッターの世界のように、一年を通じて寮対抗のスポーツ競技やフォーマルパーティなどが頻繁に開催され、寮生同士の結束がとても固いんです。私も寮友達とは、勉強も食事も遊ぶのもいつも一緒。まるで家族のようでした。

平江 留学中は、多くの人に優しくしていただきました。学友は進んで勉強の手伝いをしてくれたし、賃貸で2週間も家に泊めてくれたんですよ。みんないつも私のことを気づかってくれて。これがアメリカ流ホスピタリティなのか、とともに感激しました。

佐野 大学がある町は、フランスの国境近くに位置しており、車で30分も行けばそこはもうフランス。そんな国際的な環境に一年間暮らし、隣国というものを意識するようになりました。そこで、日本の隣国である韓国をもっと知ろうと、その頃から韓国語の勉強も始めました。

ー留学を終えて、これからは？

足立 大学院に進んで英語言語学を研究します。そして、いつかイギリスで教鞭をとることが夢！



平江香南子
留学先／アメリカ・モンタナ大学
平成15年8月～平成16年6月まで留学



ハロウィンパーティーにて

リティの精神に影響を受け、多くの人と触れ合う仕事に意を絞つて就職先を決めました。この春から、航空会社の客室乗務員として働きます。
佐野 ドイツ語の勉強はこれからも続けるつもり。将来は、ドイツとの貿易や翻訳など、ドイツ語をいかせる仕事につきたいと考えています。ー留学を考えている後輩へのメッセージは？
一同 迷つていてるなら、足踏みしないで行つた方がいい。必ず得るものがあります！

海外留学報告会

学生の海外留学への関心を高め、海外留学を積極的に推し進めることを目的として開催しています。交換留学・短期語学セミナー体験者が、留学によって得られた成果を現地の言葉を用いて発表し、また、ポスター展示コーナーを設け、海外留学に関わるより充実した情報提供もあわせて行っています。

■交換留学に関するお問い合わせは
熊本大学国際課留学生室まで
096-342-2133

■HPによる情報は
<http://center.ryu.kumamoto-u.ac.jp>
(留学生センターHP)

*コミュニケーションフレンズ制度…留学生に大学以外の人たちを紹介し、交流を促す制度

特色GPに熊本大学が2年連続で選ばれました

学習と社会に扉を開く 全学共通情報基礎教育

全学生にIT社会を生きるために
ライセンスを

文部科学省が全国の大学を対象に、今後の改善モデルとなる取り組みを公募する「特色ある大学教育プログラム」(特色GP)。平成16年度は、全国から534件の公募があった中で熊本大学の『学習と社会に扉を開く全学共通情報基礎教育』の取り組みが58件のひとつとして採択を受けました。

IT時代に必須の教育を全学で

『学習と社会に扉を開く全学共通情報基礎教育』とは、情報化社会でネットワークを使っていくた

業科目「情報基礎A・B」は、すべての学部で1年生の必修科目となっており、この単位がなければ卒業できません。大学生なら英語くらい分かるよね、といふのと同じように、大学生ならネットワークくらい使えるでしょ、というのが当然の時代になりつつあります。大学としては、学生が社会に出るとき、その利用法だけでなく、社会的責任や法的規制に関しても十分な注意を払った形でネットワークを走り

めに必要な技能と知識を、車の運転免許と同じようない定の基準を設け「ITの基本ライセンス」として全学生に取得させようという取り組みです。

「車を公道で運転するには最低限の技術と法律に関する知識、マナーや非常事態対応の能力などが必要です。ネットワークの世界も同じ。最低限の技術や知識がなければ、被害者になるだけでなく

加害者になる可能性もあります。実際に、十代の若者が著作権の侵害などで膨大な損害賠償を求められる事例も出ています。そういうことを学生自身が認識しておく必要があります」と、この取り組みの中心となる熊本大学情報基盤センター長の宇佐川毅教授は語ります。

回れる素養を持つて卒業してもらわなければなりません」。『学習と社会に扉を開く全学共通情報基礎教育』は、熊本大学の教育水準を示すひとつのブランドともなると情報基盤センターでこのプログラムを手掛ける教授たちは考えています。

1800人が同じシステムで学習



総合情報基盤センター長

宇佐川 毅



「情報基礎A・B」の授業は、週に一度の対面授業と、学生がパソコンを使って自主的に行うeラーニングの二つで構成されています。対面授業は従来と同じく教室で行われますが、eラーニングは各学生がその内容をどれだけ習熟したかを自分で確かめながら、合格点に達するまで何度も繰り返し学び、次のステップへと進める仕組みになっています。

「他人のパソコンを見ても設問の順番や解答の記号などが違っていますから参考にはなりません。自分で努力して一定水準の力を身につける。教える側は、その方法論を提示します」。早い学生では1~2回、多い学生では20回近くトライする場合もありますが、約1800人の学生のほとんどが、最終的に80点以上の成績が取れるまで自主的

に学習しています。

全学的に行われるこのプログラムでは、システムだけでなく、教育内容についても、成績の評価方法についても、教授陣が知恵を持ち寄って全て一元化しています。

基盤は学務情報システム

「ITの基本ライセンス」の学習システムが確立できた背景には、平成15年度まで熊本大学が力を入れてきた学務情報システムやe-Learningシステムの開発があります。

『SOSEKI』とよばれる学務情報システムは、平成15年度に「特色ある大学教育プログラム」の採択を受けた全国に先駆ける取り組み。15年度は5つのテーマに対し664件の公募があり、80件の取組が採択されました。従来学生課の窓口を通してやり取りしていた学生の履修申請などを、オンライン上で学生が自ら情報を得て履修計画を立て、より自主的に学ぶことを支援するシステムです。

さらに、この『SOSEKI』と連携した形で開発されたのが、学生が自宅や学内などで自由に学べるe-Learningシステム。履修科目を選択して登録すると、科目によっては授業に必要な資料がオンラインで手に入ります。

このように自主学習や基礎的知識の習得、遠隔授業などにも適したe-Learningシステムは、すでに工学部や法科大学院などで実用化されており、その教育的効果も確認され、現在最大8000科目での利用環境が整っています。

学外へも広がるe-Learning

このe-Learningシステムは、学内だけではなく学外への広がりも見せています。たとえば、地域貢献特別支援事業の一環として設けられた公開講座の「e-Learningステーション」もそのひとつ。すでに延べ2500名強の登録者が学んでいますが、今後は「ITの基本ライセンス」関連の内容も増やしていく計画です。

また、高等学校との連携もさらに進むことが考えられます。「平成18年度からは、現在高校で情報技術について学んでいる生徒たちが大学に入学してきます。どこまでの教育を高等学校で行い、大学がどこからやるのが効果的かなどの研究もいっしょに進めていくことができると思います」と宇佐川教授は語ります。

熊本大学の情報に関する教育内容は、国際的にも高い評価を得ています。本学教授による知的所有権に関する教育内容が国際協力機構

(JICA)の教材としても採用されており、インドネシアを始め各国で活用されています。

平成15年度に学内で実施したアンケートでは、「情報基礎A・B」を学習した多くの学生が、ネットワークを使う上でこれらの知識が必要であることを認識したと答えています。



CALL… Computer Assisted Language Learningの略。

自学自習できることが特徴で、対面授業と合わせて、数多くの演習課題に繰り返し取り組むことで、リスニング、リーディングを中心とした総合的な英語運用技能及びTOEICテストについて、学習者が納得するまで学習できる。

熊本大学新制55周年・法人化記念 いのちのフォーラム

新制大学55周年・法人化元年を記念して『いのちのフォーラム』が開催されました。このフォーラムに関わってきた私たち学生が、熊本テルサでのシンポジウムをレポートします。

記念講演

「いのちの危機はいつも私たちの周りを取り巻いているが、日常生活の中ではそれを他者の事件として考えてしまう傾向がある」と柳田邦男さんは指摘します。イラク戦争、佐世保小六女児事件など、世の中では重大な問題が相次いでいる中、いのちは様々な分野で危機に直面しています。それなのに、これらの問題に一定の距離をもつてしまっているのが私達です。

して、最近の非常に凄惨になつていい子どもの事件が挙げられました。柳田さんは「高度情報化や核家族化など社会の大きな変化が、社会的に弱い存在である子どもにしわ寄せし、子どもを孤立させていた」と力説しました。

事件を引き起こす子ども達の人格形成は非常に危機的な傾向にあり、佐世保小六女児事件についても加害

因の一つとして、柳田さんはアタッメントとは愛着のことであり、抱きしめるとか優しい言葉かけをするなど直接触れ合う行為で示されるものです。アタッチメントが示されると、相手は体全体で安心や温もりを感じ、そこには信頼関係が形成されます。

戦後の経済成長、核家族化、価値観の変化などにより、人が孤立する

ような社会が作られてきました。アタッチメントの欠如も、効率化を求めるあまりに、子育てのような面倒なことはやりたくないという世の中の価値観の変化が反映されたものだ

といえます。

子どものいのちの危機とこの人格特性の歪みをもたらす原因



▶写真右から上田宏晃、伊藤麻衣子、広重裕美
飯開ゆかり、服部友紀子



この社会、価値観の変化の中で何をしなければならないかを考えると、相手と向き合い、人とのつながりを大事にしていくことだと感じました。

パネルディスカッション

記念講演につづくパネルディスカッションでは、柳田さんに加えて、小川道雄県立延岡病院長、潮谷義子熊本県知事、高橋隆雄文学部教授が「いのちを育む社会」をテーマに討論しました。

潮谷知事は「大人が『愛してやるよ』

『大事な存在なんだよ』と語りかける

事によつて、子ども達は自分のいのちの大しさを知り、他人のいのちの大さを知る」と話します。優しい

言葉かけや微笑み等によるアタッチメントを「大人から子どもへの一方的なものにせず、子どもとの応答関係を作らなければならない。その中で子どもはいのちを支えてくれる存在を探し、その人に対しアタッチメントを形成する」と述べました。さらに「いのちを支えるのは誰であつてもよいし、今からでも決して遅くはない」と力を込めました。

小川氏は「生まれすぐの子どもに対し、大人がしっかりと抱いてあげることで、体全体で自分に安心を与

えてくれる者がいることを刷り込まれる（インプレッシング）。人間は本当に信頼できる存在がいることを刷り込まれると、その後に健全な人格形成がなされていく」と語り、また人間の場合、「刷り込みの修正が教育等によつてできる」と示唆しました。

「デジタル世界では、半永久的な操作が可能になつた。それ故、人の命でさえも遺伝子記号で捉え、いのちの本質を見誤つてしまつ。本来、いのちというものは様々な環境変化の中で育まれるものである。また人は自分で支えてくれる存在が必要で、相手が何を求めているか関心を示すことが大事であり、デジタルのように半永久的ものでは決してない」と話すのは倫理学を専門とする高橋教授。

フォーラムを終えて

では、すべてをマニュアル化してしまひ、肝心のこころが置き去りになつてしまつ。それをどのように修復していくかということに取り組まなければならぬ。」と柳田さんは締めくくりました。

ディスカッション



柳田邦男氏



潮谷義子氏



小川道雄氏



高橋隆雄氏

いのちのフォーラムプログラム

10月30日(土)13:30~17:00 熊本テルサホール

挨拶

熊本大学学長 崎元達郎

熊本大学同窓会連合会 園田頬和氏

熊糸祭実行委員長 中澤浩太(教育学部2年)

記念講演

「いのちの危機、心の危機」

～電子メディアと子どもの成育～ 柳田邦男氏

絵本の朗読

「エリカ 奇跡のいのち」

訳:柳田邦男氏 朗読:須崎 愛氏

いのちのパネルディスカッション

小川道雄氏(県立延岡病院長・元熊本大学副学長)

潮谷義子氏(熊本県知事)

柳田邦男氏(ノンフィクション作家、評論家)

高橋隆雄氏(熊本大学文学部教授)

10月31日(日)17:30~20:30 熊本大学工学部百周年記念館

挨拶

熊本大学副学長 小野友道

恵楓園自治会長 太田 明氏

「いのちの電子メール」

太田國男氏

結純子ひとり芝居

「地面の底がぬけたんです」

操作が可能になつた。それ故、人の命でさえも遺伝子記号で捉え、いのちの本質を見誤つてしまつ。本来、いのちというものは様々な環境変化の中で育まれるものである。また人は自分で支えてくれる存在が必要で、相手が何を求めているか関心を示すことが大事であり、デジタルのように半永久的ものでは決してない」と話すのは倫理学を専門とする高橋教授。

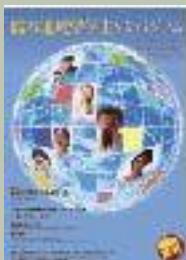
これに関連し「デジタル世界の中での生活を振り返つて、自分達を支えてくれる人達の存在に改めて感謝しました。そして、自分と他の関わり合いを意識していくことが大切だと思いました。色々な視点からいのちについて考へることで自分を深めることもでき、このフォーラムに関わつたことは、私たちにとって貴重な経験となりました。(法学部 上田宏晃、伊藤麻衣子、服部友紀子、飯開ゆかり、広重裕美)

1/24
月

熊本地域留学生 シンポジウム

無料

13:00~20:00



- 会場／熊本県民交流館パレア 10Fパレアホール
 - 主催／熊本大学 熊本留学生交流推進会議
 - お問い合わせ
- 熊本大学留学生センター 梅田研究室
TEL 096-342-2136
E-mail umeda@kumamoto-u.ac.jp
http://center.ryu.kumamoto-u.ac.jp

2/8
火

シンポジウム

10:00~17:00 「大学の国際化とこれからの留学生教育」

- 会場／熊本大学工学部百周年記念館
(黒髪南キャンパス)

お問い合わせ・申し込み

申し込み締切日
1月31日(月)

熊本大学留学生センター

今西研究室

TEL 096-342-2132

E-mail imanishi@kumamoto-u.ac.jp

http://j2.ryu.kumamoto-u.ac.jp/sympo2004/index.html

学術交流シンポジウム

1/20
木

The 2nd KITECH-KU Symposium on Bulk Metallic Glasses and Pulsed-Power Processing

●講演予定者

Emeritus Prof.T.Masumoto (Tohoku University),
Prof.K.Chattopadhyay (Indian Institute of Technology),
J.C.Bae (KITECH),
Dr.T.G.Nieh (Lawrence Livermore National Laboratory),他多数

●会場／阿蘇プリンスホテル

- 主催／熊本大学21世紀COEプログラム
「衝撃エネルギー科学の深化と応用」
Bulk Amorphous &
Nano Materials Center,KITECH,Korea

お問い合わせ

熊本大学工学部知能生産システム工学科
環境工業材料学講座 河村研究室内

山崎倫昭助手

TEL:096-342-3705 FAX:096-342-3710

http://saiya.msre.kumamoto-u.ac.jp/~kankyo/kitech-ku/index.htm
※KITECH(韓国)と熊本大学は、部局間学術交流協定を締結しています。

2/4
金

熊本大学知的財産創生推進本部 産学官技術交流会 軽金属学会九州支部 講演会 高性能Mg合金創成加工研究会 第10回定期講演会

9:30~17:15

「大学のチャレンジ 無料

—Mg産業創生の拠点化を目指して—

- 主催／高性能Mg合金創成加工研究会、
軽金属学会九州支部、熊本大学知的財産創生推進本部
- 会場／熊本大学工学部百周年記念館
- 講演会定員／120名(2005年1月20日申込み締切、
ただし定員になり次第締切)

お問い合わせ

高性能Mg合金創成加工研究会
TEL 096-342-3705 FAX 096-342-3710
http://saiya.msre.kumamoto-u.ac.jp/~mg/index.htm

入試情報

(平成16年12月15日現在)

■ 大学院入試日程 ■

選抜区分	願書受付期間	試験日	合格発表
文学研究科(修士課程) 社会人特別選抜を含む 《第2期・春季日程》	1/17～1/21 月～金	2/14 月 2/15 火	2/28 月
法学研究科(修士課程) 社会人特別選抜及び 外国人留学生特別選抜を 含む《第2期》	1/17～1/21 月～金	2/12 土 2/13 日	2/22 火
医学教育部(修士課程) 《春季日程》	1/6～1/12 木～水	1/24 月 1/25 火	2/7 月
医学教育部(博士課程) 社会人特別選抜を含む 《春季日程》	1/6～1/12 木～水	2/14 月 2/15 火	2/28 月
薬学教育部(博士後期課程) 社会人特別選抜を含む	1/25～1/28 火～金	3/3 木	3/8 火
社会文化科学研究所 (博士課程) 社会人特別選抜及び 外国人留学生特別選抜を 含む《春季日程》	1/18～1/24 火～月	3/1 火	3/11 金
自然科学研究科(博士前期課程) 第2次 社会人特別選抜を含む	1/6～1/12 木～水	1/27 木 1/28 金	2/10 木
自然科学研究科(博士前期課程) 外国人留学生特別選抜	2/4～2/10 金～木	2/23 水 2/24 木	3/11 金
自然科学研究科(博士前期課程) 学部3年次を対象とする選抜	2/23 水	3/3 木 3/4 金	3/11 金
自然科学研究科(博士後期課程) 第2次 社会人特別選抜を含む	1/17～1/21 月～金	2/9 水 2/10 木	3/11 金

■ 学部入試日程 ■

選抜区分	願書受付期間	試験日	合格発表
推薦 (センター試験を課す)	1/17～1/21 月～金	2/5 土	2/10 木
一般 (前期日程)	1/24～2/2 月～水	2/25 金 2/26 土	3/8 火
一般 (後期日程)	1/24～2/2 月～水	3/12 土	3/21 月

※予定が変更されることもあります。
ホームページ等でご確認下さい。

お問い合わせ

熊本大学学生部入試課 〒860-8555 熊本市黒髪2丁目40番1号
TEL 096-342-2146 FAX 096-345-1954 E-mail nyushi@jimu.kumamoto-u.ac.jp
熊本大学ホームページ http://www.kumamoto-u.ac.jp/univ-j.html

熊本大学オンエアー

RKKラジオ
日曜18:05
~18:15

放送公開講座(ラジオ講座)

熊本大学の様々な研究活動によって生み出された専門の知識を、「面白く、ためになる」情報として、みなさまに分かりやすくお届けします。

シリーズ
1

「ハーン没後100年からの課題」

(教育学部 西川盛雄教授)

- | | | |
|---|-------------|-------------------|
| 1 | 平成16年11月 7日 | 「ケルト・ギリシャ文化の人ハーン」 |
| 2 | 平成16年11月14日 | 「ジャーナリストハーン」 |
| 3 | 平成16年11月21日 | 「教育者ハーン」 |
| 4 | 平成16年11月28日 | 「文学者作家ハーン」 |
| 5 | 平成16年12月 5日 | 「ハーン没後百年とハーンの未来性」 |

シリーズ
2

「生活習慣病の今」

(保健センター長 岸川秀樹教授)

- | | | |
|---|-------------|------------------|
| 1 | 平成16年12月12日 | 「生活習慣病とはどんなもの?」 |
| 2 | 平成16年12月19日 | 「飽食の時代と肥満」 |
| 3 | 平成16年12月26日 | 「糖尿病は多種類の病気の集合体」 |
| 4 | 平成17年 1月 9日 | 「生活習慣病としての高血圧」 |
| 5 | 平成17年 1月16日 | 「生活習慣病研究の最前線」 |

シリーズ
3

「衝撃エネルギー科学の深化と応用」

- | | | |
|---|------------|------------------------------------|
| 1 | 平成17年1月23日 | 「21世紀COEプログラムについて」(自然科学研究科秋山秀典教授) |
| 2 | 平成17年1月30日 | 「爆発現象の制御と応用」(衝撃・極限環境研究センター外本和幸助教授) |
| 3 | 平成17年2月 6日 | 「超重力場の発生と物質化学への応用」(同センター真下茂助教授) |
| 4 | 平成17年2月13日 | 「衝撃エネルギーのバイオへの作用」(自然科学研究科高野博嘉助教授) |
| 5 | 平成17年2月20日 | 「衝撃エネルギーの環境・リサイクルへの利用」(同勝木淳助教授) |

シリーズ
4

「ファイトセラピーへの誘い」

(医学薬学研究部 野原稔弘教授)

- | | | |
|---|-------------|------------------------------|
| 1 | ①平成17年2月27日 | 「民間薬と漢方薬の違いを理解し、民間薬を利用しましょう」 |
| 2 | ②平成17年3月 6日 | 「食とくすりの関連性について」 |
| 3 | ③平成17年3月13日 | 「生活習慣病を民間薬で治しましょう」 |
| 4 | ④平成17年3月20日 | 「癌予防・痴呆症の予防に民間薬を用いましょう」 |
| 5 | ⑤平成17年3月27日 | 「サプリメントの正しい知識について」 |

●熊本大学 生涯学習教育研究センター <http://www.lifelong.kumamoto-u.ac.jp/>

●お問い合わせ／熊本大学総務部総務課地域共生戦略室 TEL 096-342-3121 FAX 096-342-3110

日本産業技術教育学会第17回九州支部大会 学生優秀発表賞を受賞

平成16年10月16日に行われた日本産業技術教育学会第17回九州支部大会の総会において、大学院教育学研究科技術教育専攻修士課程1年の塩田琴美さんと2年の井上康平さんが選ばれました。

塩田琴美さんの入賞論文:
超高速交通システム
「エアロトレイン」の
教材化に関する研究
—燃料電池教材を用いた授業実践—



塩田琴美さん

井上康平さんの
入賞論文:
床暖房用樹皮成形
ボードの形状改良



井上康平さん

平成16年度 熊本大学教育学部附属小学校 研究発表会

8:15~15:30

■研究主題 学びが好きになる 授業の創造(3年次)

～協同的な学びをめざして～



●期日／平成17年2月10日(木)

●日程／18:15 受付開始

9:00~ 9:45 公開授業 I

10:00~10:45 公開授業 II

11:00~12:10 教科等分科会

13:10~15:30 全体会・講演

●全体会・講演／

全体提案:研究部長山崎浩隆

講 演:「『学ぶ』ということの意味」青山学院大学 佐伯 育教授

●申し込み方法／本会は予約制です。

①郵便振替用紙にて会費を納入された方のみ、受付をいたします。

②払込用紙の払込み住所欄には、学校の住所をお書きください。

平成17年1月28日(金)までに振り込んでください。

会費:3,000円

お問い合わせ

熊本大学教育学部附属小学校
TEL096-356-2492 FAX096-356-2499
<http://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/elem/>



お薦めの一冊

「名門アーサーアンダーセン—消滅の軌跡」
出版:シュプリンガー・フェアラーク東京
著者:S.スクワイア 他 訳者:平野皓正 出版年:2003年12月



監事 高橋 誠一

「名門アーサーアンダーセン—消滅の軌跡」は2001年12月ウォール・ストリートを震撼させて倒産したエネルギー業界の巨人エンロンの外部監査人であり世界5大監査法人のひとつであったアーサーアンダーセンの崩壊の原因ならびにその生い立ちの歴史を4名の元社員が書いた内幕のストーリーです。

エンロンと言えばCEOやCFOが会計を操作し会計を歪め投資家を欺き一時時価総額が1,100億ドル(13兆円)を越した株がゼロになり株主に膨大な損失を与えたことで世間を唖然とさせ米国の資本市場の歴史に一大汚点を残した会社です。

本書は業界の名門アーサーアンダーセンが何故にかくも簡単に巻き添えを食つて滅んだのかその原因を明らかにしたもので、もともと創業者社長のアーサーEアンダーセンが強い価値観と猛烈な仕事によって築きあげた個人商店であったものが会計監査とコンサルティングという性格の極めて異なった業務を併せ持っていたことにこの悲劇の遠因が存在しました。時代の流れとともに時代の流れに翻弄されたところに、また、公(public interest)のための仕事が儲け優先の仕事に過度に変質せざるを得なかったところに85,000人の社員が一挙に失業するという悲劇が発生したのです。

私はこの本を読んでこの会社の持って生まれた業というものを強く感ずるのですが皆さんはどうのように感じられるのでしょうか興味のあるところです。



平成16年度

熊本大学教育学部フレンドシップ事業 公開シンポジウム

フレンドシップ事業は、教員養成系大学・学部における教職を志す学生の教員としての実践的指導力養成に資するため、平成9年度より教員養成学部フレンドシップ事業促進等経費によって実施してきている事業です。教員の養成段階において、学生が種々の体験活動等を通して、子どもたちとふれあい、子どもの気持ちや行動を理解し、教員としての実践的・指導力の基礎を身につけることができるような機会を設けるものです。当該年度の事業の振返りとまとめを行うために、学生自主企画による公開シンポジウムを開催します。

問い合わせ先 教育学部附属教育実践総合センター 中山玄三
TEL 096-325-3282(事務室)
096-325-3382(研究室直通)

●日 時:平成17年3月2日(水)10:30~17:40
●場 所:教育学部318号教室

開催要項

10:30~10:40 開会挨拶

熊本大学教育学部長 石原昌一

10:40~11:20 特別講演

講演者:熊本県教育庁社会教育課長 増子則義氏

12:30~17:30 メイク・フレンズ振返りの会

12:30~12:40 メイク・フレンズの活動全体の振返りの発表

12:40~14:25 メイク・フレンズの班活動等の振返りの発表とコメント

14:30~17:30 課題別分科会での意見交換と発表

子どもとかわる活動で体験した具体的なエピソードをもとに、課題について、分科会形式で意見交換を行う。

17:30~17:40 閉会挨拶

熊本大学教育学部附属教育実践総合センター長 宮本光雄

熊大にまた一つ名所ができました。本号の見開きを飾るラフカディオ・ハーンのレリーフです。その横には、「極東の将来」と題した講演の結語の一部が刻まれた石碑もあります。時折、これらを見学されている学外の方を見かけます。

ハーンのレリーフの奥に位置する赤煉瓦の五高記念館、ここには旧制の第五高等学校からの資料が数多く展示され、開館日の土日には無料で閲覧することができます。

館内には感想等の記入帳があるのですが、見ますと意外と県外からの来館者の方も多いようです。一方、身近にありながら卒業近くになって初めて見学し、歴史と伝統の重さを感じたという在学生の感想も寄せられていました。熊大にいる私たち自身が、意外と熊大について知らないのかもしれません。

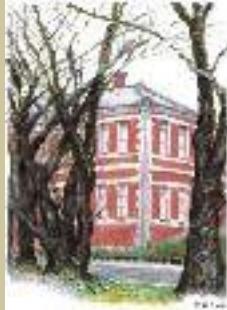
法人化からもうすぐ一年、私たち一人ひとりが「熊大の将来」のビジョンをどう描くのか。「熊大とは何ぞや」、没後100年のときを超えて、ハーンのレリーフは私たちに問いかけていよいよ気がします。

(編集委員：緒方公一)

編集委員

文 学 部	水元豊文
教 育 学 部	佐藤毅彦
工 学 部	緒方公一
発 生 医 学 研究センター	条 和彦
生涯学習教育 研究センター	上野眞也(委員長)

事務局／総務課広報室
文責／熊大通信WG



表紙／熊本大学五高記念館横の冬木立。
春には満開の桜並木になる。

熊本大学公式ホームページ
<http://www.kumamoto-u.ac.jp/univ-j.html>

熊大通信では、皆様の
ご意見・ご感想をお待ち
しております。

● 宛先 ●

熊本大学総務部総務課広報室
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号
TEL: 096-342-3119 FAX: 096-342-3110
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

新見聞でる学

10/7
熊本日日新聞

熊大がシンクタンク

年内にも政策研究地域に還元

（本文略）

10/7
熊本日日新聞

不登校児と向き合う

「大學生」マーチレント、まつこ

子どもへの想いを語る
「信頼」づくり試行錯誤

（本文略）

11/24
熊本日日新聞

グループワークなど体験

大学に生徒で魔術ガバナンス

（本文略）

11/6
熊本日日新聞

**ニュース教材で
リスニング向上**

宇土高「高大連携」の英語授業

（本文略）

（本文略）



授業開放

熊大で学ぶ。

熊本大学では、大学の授業を学生とともに受講する「授業開放」を実施しています。

これは、熊本大学が行う大学開放活動の一環で、

各学部、大学院、大学教育研究センター及び医療技術短期大学部が開設している正規の授業の一部を開放し、生涯学習に対する社会的要請に応えるとともに、地域社会と大学との連携をさらに深めようとするものです。

受講資格

高等学校卒業程度以上の学力を有する方

募集定員

各科目原則として5名以内

開講場所

熊本大学各学部等

受講料

開放する授業科目によって受講料は異なります。詳しくは募集要項の「授業開放科目一覧」をご覧ください。

開講期間

前学期：4月～7月／後学期：10月～3月

募集要項の請求方法

請求者の郵便番号、住所、氏名を記載し、200円切手を添付した返信用封筒(角型2号封筒:33×24cm)を同封し、請求してください。

募集期間

前学期：3月／後学期：8月

募集要項の請求は3月から!!

熊本大学生涯学習教育研究センター

熊本大学総務部総務課地域共生戦略室
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号

E-mail:sos-tiiki@jimu.kumamoto-u.ac.jp

TEL.096-342-3121
FAX.096-342-3110

URL:<http://www.lifelong.kumamoto-u.ac.jp/>



TM 印刷インキは大豆油インキを使用しています。



古紙配合率100%の再生紙を使用しています。